

## RQ-4横田へ 共同パートナーと同盟国に継続的な支援を提供 *Global hawks return to Yokota to provide continuous support to joint partners, allies*

June 2, 2020

By Staff Sgt. Matthew Gilmore  
374th Airlift Wing Public Affairs

太平洋空軍は5月30日、米国インド太平洋軍の偵察任務を支援する継続的な運用を行うため、RQ-4グローバルホークをグアムのアンダーセン空軍基地から横田基地へ一時的に展開する。

今回の第319偵察航空団第1分遣隊のグローバルホークの横田基地への一時的な展開は、これまでに即応力の妨げとなった台風などの悪天候のシーズンを回避するため、プラットフォームを移し継続して運用を行うためである。

「悪天候が見込まれるシーズンに任務を遂行するための代替地があることで、日本の防衛を支える米国インド太平洋軍と同盟の偵察運用要件を維持し、地域の国際平和と安全維持に寄与できる」と第319運用群第1分遣隊長ベン・クレイクラフト中佐は説明した。

そして、「横田基地に再び来訪し、とても有能な基地とその周辺のコミュニティとのパートナーシップを構築し続けられることを心から期待している。2019年同様、横田基地は関東平野の好い天候下にあり、基地周辺のフライトや地域に影響を及ぼさず運用できるため、我々の任務にとって最も適した場所だ」と加えた。

グローバルホークは、世界の平時、不測の事態、危機における作戦での共同戦闘部隊を支援するための、幅広い米国の情報収集、監視、偵察 (ISR) の任務を行う。

また偵察要件の支援に加え、同機はトモダチ作戦などの人道支援や災害救援活動、および日本周辺の数々の捜索救難活動の支援にも使用されている。

グローバルホークは、高高度で長時間滞空し、遠隔操作方式の非武装機で、空中偵察システムとして運用されている。また、内蔵された数々のセンサーとカメラにより、広大な空域を昼夜問わず高解像度で全天候に対応した画像を永続的に提供できるように設計されている。

「横田基地は、毎年の一時的展開および危機や不測の事態において、航空機や人員を安全に受け入れられる最も効果的で有能な基地の一つであることを証明し続けている。コロナウイルスのような目に見えない敵であれ、台風のような目に見える脅威であれ、チーム横田は我々のパートナーとその同盟国が信頼できる飛行場から任務を継続できることを確実にする準備ができている」と第374空輸航空団司令官オーティス・ジョーンズ大佐は述べた。

